

令和4年度 岩手県農業研究センター試験研究成果書

区分	指導	題名	ぶどう「サニールージュ」の早期ジベレリン処理技術における適正着房数		
[要約] ぶどう「サニールージュ」で、早期ジベレリン処理を行った場合、果粒肥大が促進される傾向にあるが、1新梢あたりの着房数を0.9房程度とすることで、着色が良く、糖度が17度以上の果房が収穫でき、10aあたり1.7t程度の収量を確保できる。					
キーワード	サニールージュ	早期ジベレリン処理	適正着房数	園芸技術研究部 果樹研究室	

1 背景とねらい

ぶどう品種「サニールージュ」は、食味良好な赤色品種として、平成16年度に県の奨励品種へ採用され（参考資料1）、生産者からも一定の評価を受けている。また、令和元年には、早期ジベレリン処理により摘粒作業の省力化および熟期の前進効果が得られる研究成果を示し（参考資料2）、本技術は多くの生産者に利用されている。しかしながら、果粒肥大も促進される傾向があり、結果として着果負担が増加することで、果実品質や翌年の生育への影響が懸念されている。

そこで本研究では、「サニールージュ」の継続的な高品質生産に向け、早期ジベレリン処理技術における適正な着果基準（1新梢あたり着房数）を明らかにする。

2 成果の内容

- (1) 1新梢あたりの着房数が少ないほど収量は減少し、0.6房区では生産性に問題がある（表1）。
- (2) 収穫時の果実品質では、1新梢あたりの着房数が0.6房区と0.9房区の間には差は見られない（表2）が、1.2房区では糖度の上昇が遅れる傾向があり（図1）、また、果皮が着色しないまま収穫期を迎える果房も多く見られる（図2、3）。
- (3) 以上より、早期ジベレリン処理を行った場合、1新梢あたりの着房数を0.9房程度とすることで、着色が良く、糖度が17度以上の果房を収穫でき、1.7t/10a程度の収量を確保できる。

3 成果活用上の留意事項

- (1) 本試験は、「サニールージュ」の一般的な栽培法である、雨よけトンネル被覆の短梢H型整枝で行った。また、主枝1mあたりの新梢数は、短梢栽培時における一般的な本数である11本とした。花穂は満開期に先端7cm程度に調整し、7月中旬までに摘房し着果量を調整した。
- (2) 果房は、1房350~400g程度、果粒数50粒程度を基準とする（参考資料3）。過大な房の着果は、同じ1新梢あたりの着房数でも、品質低下や着色不良を招く恐れがあることから、花穂整形後、花穂長が長くなりすぎないように適宜調整する。
- (3) 本品種は赤色散光品種であり、着色には一定の日照が必要であることから、過剰な新梢数や副梢の過繁茂は避け、適正な棚面の明るさを維持する。
- (4) なお通常のジベレリン処理を行った場合も、本成果と同程度の1新梢あたりの着房数とする。

4 成果の活用方法等

- (1) 適用地帯又は対象者等 県内全域（ぶどう生産地域） 農業普及員、JA営農指導員
- (2) 期待する活用効果

「サニールージュ」の安定生産が可能となり、生産者の収益性向上が図られる。

5 当該事項に係る試験研究課題

(H30-17) 生食用ぶどう品種の育成・選抜と栽培技術の確立
(3000) 安定・省力栽培技術の確立 [H30~R4/県単]

6 研究担当者

佐々木俊洋

7 参考資料・文献

- (1) 平成16年度岩手県農業研究センター試験研究成果「ぶどう 品種 食味良好な紫赤系品種「サニールージュ」
- (2) 令和元年度岩手県農業研究センター試験研究成果「ぶどう「サニールージュ」の早期ジベレリン処理による省力・熟期前進効果」
- (3) 令和3年度岩手県果樹指導要項

8 試験成績の概要（具体的なデータ）

表1 1新梢あたりの着房数の違いが樹体や収量等に及ぼす影響（'19～'22年（'21年除く）の平均）

着房数 (房/1新梢)	収穫日 (月/日)	新梢長 (cm)	節数 (節)	節間長 (cm)	登熟率 (%)	換算収量 (kg/10a)
0.6	8/28	147.0	17.5	8.5	74.6	1,086
0.9	8/28	137.6	16.2	9.2	76.8	1,724
1.2	8/31	146.3	17.5	8.4	66.1	2,107

注) 試験樹の概要：2005年定植、短梢平棚、H型整枝、植栽距離4m×16m。主枝1mあたり新梢本数：11本。
1新梢あたり葉枚数：18～20枚。登熟率：各試験区の新梢について休眠期に調査。
2021年のデータは、発芽前に主枝1本が枯死し、試験対象主枝の変更を行ったため除外。

表2 1新梢あたりの着房数の違いが収穫時の果実品質に及ぼす影響（'19～'22年（'21年除く）の平均）

着房数 (房/1新梢)	房重 (g)	粒重 (g)	糖度 (Brix)	酸度 (g/100ml)	果皮色 (CC指数)
0.6	396.4	7.9	17.6	0.59	5.7
0.9	388.6	7.5	17.5	0.56	6.0
1.2	382.5	7.6	17.3	0.57	4.7

注) 試験樹の概要は表1と同様。
調査果数：各区10果。果皮色：農林水産省果樹試験場基準果実カラーチャート ブドウ 赤・紫・黒色系 を使用。

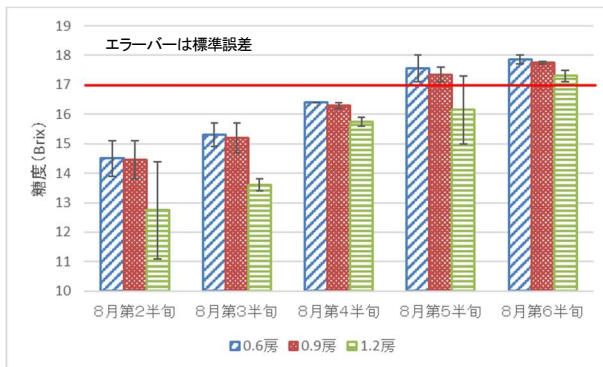


図1 1新梢あたりの着房数の違いが糖度に及ぼす影響（'19～'22年（'21年除く）の平均）
※収穫期目安である糖度17度を赤色実線で表示

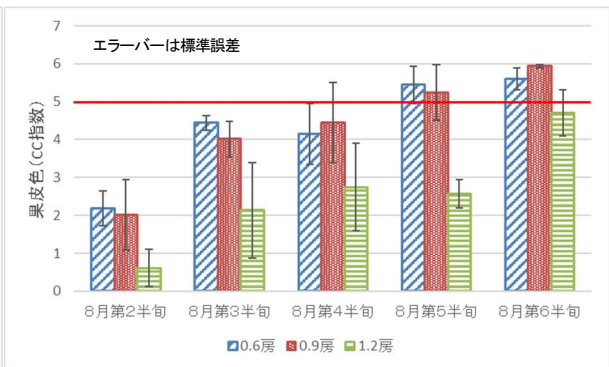


図2 1新梢あたりの着房数の違いが果皮色に及ぼす影響（'19～'22年（'21年除く）の平均）
※収穫期目安である果皮色指数5を赤色実線で表示

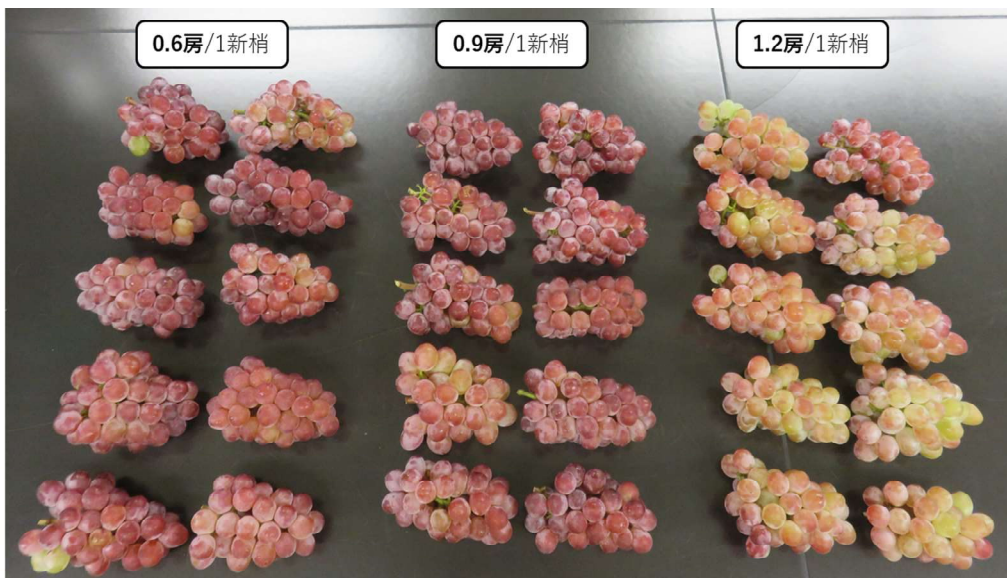


図3 1新梢あたりの着房数の違いによる収穫果房と着色程度（2022年）